



「ダイヤモンドOA」 としての紀要

2022年11月25日

図書館総合展2022 「ダイヤモンドOAと機関リポジトリ」

設樂成実(京都大学東南アジア地域研究研究所)

shitara@cseas.kyoto-u.ac.jp

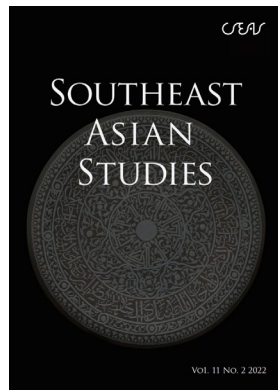
自己紹介

2011年 研究員として英文誌の立ち上げ準備に参加

2012年～ 助教・編集室長として『東南アジア研究』、*Southeast Asian Studies*のマネージング・エディターを担当

京都大学附属図書館研究開発室・室員／国立国会図書館関西館・非常勤調査員／

DOAJ Ambassador



- 査読誌（ダブルブラインドレビュー）
- 外部投稿OK
- 投稿料、掲載料不要(研究所の運営費で出版)
- 即時オープンアクセス＋プリント版（無料配布）。ただし和文誌は、ライセンスが未設定のため厳密にはフリーアクセス
- 著作権は研究所がもつ
- ウェブサイト、機関リポジトリ、J-STAGEで公開中

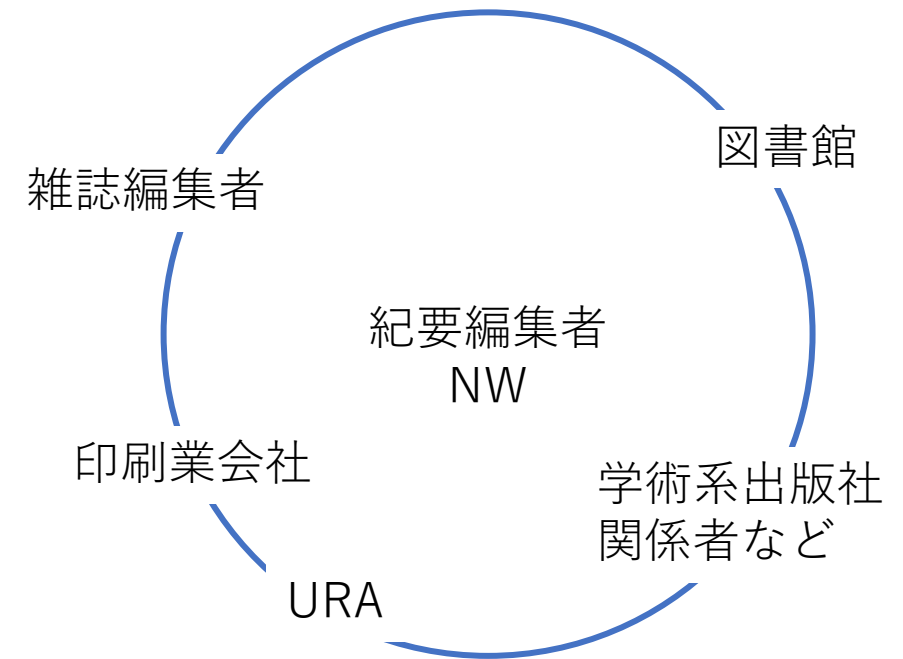
紀要編集者ネットワーク

紀要編集者ネットワーク

- （編集現場）編集の現場で直面する様々な疑問や問題を、だれかに相談できないか？
- （URA）研究支援の一つとして、学内の出版活動を支えたい、研究者の負担を減らしたい



雑誌編集者と、雑誌編集にいろいろな場面で携わる人々を結び、意見や情報交換ができる場所づくりを目指す



<https://kiyo.cseas.kyoto-u.ac.jp/>

セミナー開催



セミナー内容公開中

2017.3.4

紀要編集者NWキックオフセミナー「「紀要」の可能性」

2018.2.26

「学術情報の国際発信力強化－学術刊行物・紀要を中心に－」

2020.10.31

研究・イノベーション学会第35回年次学術大会 実行委員企画セッション

「紀要の魅力と大学の役割」

2021.1.19/1.28

L-INSIGHT/KURA連携プログラム パブリッシングセミナー

第1回 「ジャーナルをたちあげる」

第2回 「ジャーナルを可視化する」

2021.10.29

研究・イノベーション学会 第36回年次学術大会 企画セッション

「挑戦する日本の学術誌」

2023.2.3

連続セミナー「大学が学術出版をする意義と方向性」（仮題、講師：吉岡（小林）徹先生）を予定

DOAJ収録申請支援



翻訳資料など公開中

DOAJとは、

2003年にスタートした査読付きオープンアクセスジャーナルの索引

イギリスの非営利慈善企業であるIS4OA：Infrastructure Services for Open Accessが管理運営する。

専門分野、地域、言語に関係なく、質の高い査読付きオープンアクセスジャーナルを収録し、各誌の認知度、アクセス性、評判、利用性、影響力を世界的に高めることを目指す。

DOAJに収録されるメリット

- 世界的な基準を満たしたオープンアクセス誌であるという評価の獲得
- ビジビリティの向上

日本のジャーナルの収録はまだまだ少ない！（第40位、75誌 2022年8月現在）

※ J-STAGE収録誌に対してはJSTがDOAJ登録を支援

紀要編集者NWでは、**申請要件を整えることで世界基準のジャーナルの体裁を整えることができる**点も有益だと考え、紀要の登録支援を行っています。登録や申請書の作成などの相談を受け付け中です。

活動での難しさ
そもそも紀要の定義は難しい・・・

■広辞苑

大学・研究所などで刊行する、研究論文を収載した定期刊行物

刊行元に基づく定義

⇒刊行数など、国内の学術誌に関する量的調査、データベースでの論文種別の登録の際には、こちらの定義が多く利用される

一概でない紀要の定義が、紀要に関する議論を難しくしていないだろうか。

機関リポジトリが紀要の支援を検討する際には、この点への考慮が一つのポイントになるのでは。

■光斎重治編著、『逐次刊行物』

- 1) 大学または学術機関の特定の人だけを対象に論文を収録している
- 2) 論文は学術雑誌のような評価基準（レフェリー）によらず、任意に収録されるため、論文の質的レベルが一定でない場合が多い
- 3) 一般の流通系を通らず、寄贈・交換でしか入手できない
- 4) 発行部数が少ない
- 5) 発行頻度が少ない
- 6) 原稿募集や編集が片手間に行われていることが多く、結果的に不定期刊行が多くなる
- 7) 休刊や廃刊が突然起こる。また、誌名変更や分冊が予告なく行われる場合が多い
- 8) 執筆方法が著者に任せられ、書誌記述があいまいなことが多い
- 9) 紀要に収録された文献を検索する手段が限られるため、一般の目に触れる機会が少ない

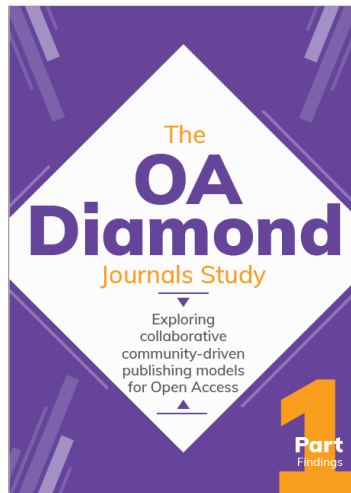
性格に基づく定義

⇒紀要についての語りでは、こちらの定義が多く利用される

紀要のダイヤモンドOA出版
が拓く可能性

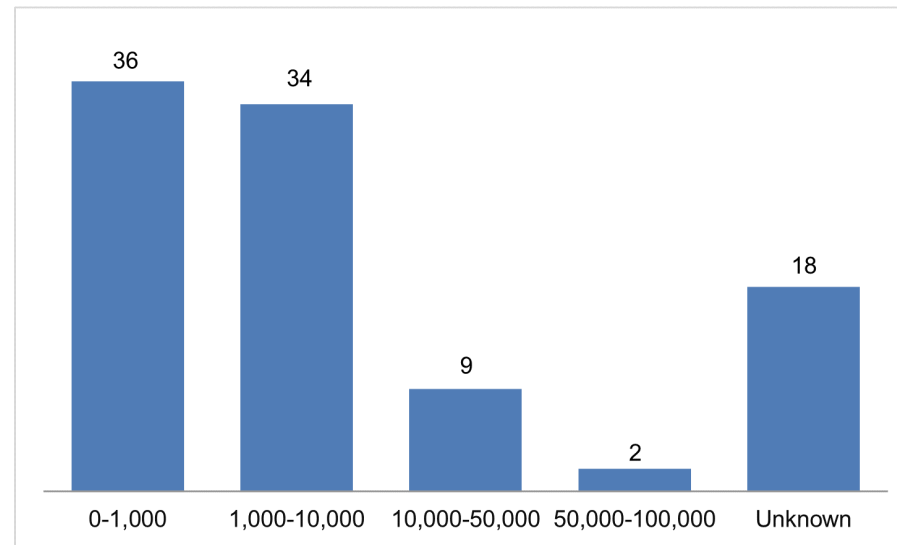
- 出版コスト、ひいては研究費の抑制に

ダイヤモンドOAでは、1本あたりの制作コストがおさえられるという調査結果が報告されている（OA Diamond Journals Study. Part 1: Findings）



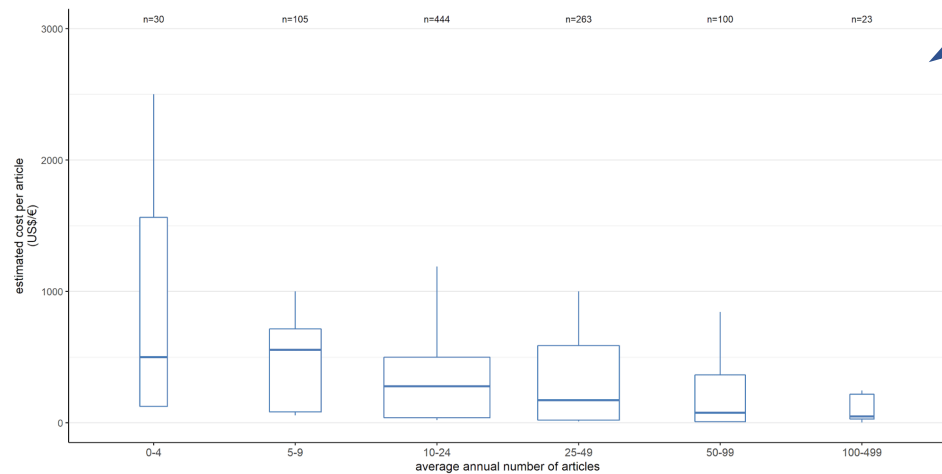
<https://doi.org/10.5281/zenodo.4558704>

*本調査に関しては下條（2022）の解説が詳しい



編集・制作に支払った年間金額（単位：ドル／ユーロ
運用コスト%）（ $n=1,388$ ）
（Proudman 2021, Part4, Fig.4より転載）

中央値は、208 ドル／ユーロ。
雑誌の規模に応じて減少
(Bosman et al. 2021, p.112)



ダイヤモンドOA誌の推定論文単価 ジャーナルサイズ
による比較 (Proudman 2021, Part4, Fig.5より転載)

	質の高い雑誌		中程度の雑誌	
	購読者負担	著者負担	購読者負担	著者負担
固定費用	\$1,650 (183,150)	\$1,850 (205,350)	\$825 (91,575)	\$925 (102,675)
可変費用	1,100 (122,100)	100 (11,100)	600 (66,600)	100 (11,100)
総費用	2,750 (305,250)	1,950 (216,450)	1,425 (158,175)	1,025 (113,775)

電子出版を基本とする1論文あたりのおよその出版費用
(芳鐘 2004, 図1より転載 [国立国会図書館ウェブサイトより](http://current.ndl.go.jp/ca1543)
<http://current.ndl.go.jp/ca1543>)

- ✓ 技術革新やサービスの向上が続く中、必要な機能を取捨選択できることでコストカットにつながっているか
- ✓ ただし、ボランティアな労働への依存が大きく見えないコストがある点に留意
- ✓ どこまで論文の質を高めるか、どこまでのサービスを著者や読者などに提供するかによってもコストは変わること留意

- **学術コミュニケーションをめぐる問題への研究者の関心の向上**

自ら出版を担うことで、研究者自身が学術出版のプロセスを理解し、学術出版をめぐる問題を自分事として理解する。

購読料モデルでは消費者（研究者）と購入者（図書館）が異なることから、価格感応度が低くなっていた(西岡 2022)が、この問題の緩和へ

ダイヤモンドOAとしての
紀要の課題

世界のダイヤモンドOA誌の抱える課題

- **ボランティア的な労働、大学や政府の資金への依存**

- **運営上の問題**

アクセス統計などのモニタリングと報告ができていない、ベストプラクティスに準拠しているが剽窃ツールを使っていない、査読者を見つけるのに苦労している、国際的なインデックスへの収録が難しい

(Bosman et al. 2021, p.8)

日本の紀要の抱える課題

学術出版社のサービス

- ① 投稿原稿を取捨選択する
- ② 編集作業を行う
- ③ 広く出版する
- ④ 著作のブランド価値を高めて宣伝する

(アンダーソン 2018, p. 65)

- 扱う原稿の幅の広さゆえ、査読者の確保が難しい。

そもそも査読が適当でないカテゴリーもある。

査読がないからこそ自由に書けるという魅力もあるが、この点が理解されないこともある。

- 小規模な出版者ゆえにここが弱い

✓世界基準のベストプラクティスに準拠できていない

✓学術情報流通をめぐる世界的な潮流、新しい技術のキャッチアップが難しい

✓Visibility, Findability向上の取組が弱い

✓広報力が弱い・・・

⇒紀要の「評価」が上がらない

⇒投稿数が減る、「編集業務」が業績評価につながらず引き継ぐ研究者がいなくなる

(悪循環)

機関リポジトリへの期待

機関リポジトリへの期待①

ジャーナルの基本情報の整理と明示

- 投稿資格
- 査読の有無
- 編集委員会の構成
- 投稿規定
- Aims and Scopes（目的と範囲）…

といった学術誌としての基本情報の整理と明示

「投稿規程」「査読規程」「内規」「表紙」などといったPDFファイルの一つとして公開され、見つけにくい(設楽 2018)。そもそも情報が無いものもある。

情報の整理と公開により

- ⇒ジャーナルは世界的な基準を満たすことができる。
- ⇒機関リポジトリは、各ジャーナルを理解し、それに応じた支援の在り方を検討できる

機関リポジトリへの期待②

ライセンス付与に関する啓蒙活動

- 世界基準のオープンアクセスを名乗るには、ライセンスの設定が必要。しかし、“オープンアクセス”と“フリーアクセス”の違いを気にしていない紀要も多いのでは（cf. JPCOARコンテンツ流通促進作業部会 2022）

①ライセンスの付与にあたり、どのような留意点があるか？

②ライセンスの付与に伴い、投稿規定などをどのように修正すべきか？

といった助言もいただけると嬉しい

機関リポジトリへの期待③

引用データの作成と公開

- J-STAGEでは引用データの公開が進んでいる
- 学術書に関しても、引用データの作成を求める声も高まっている
(cf. 後藤 2018)
⇒ 紀要が取り残されないかという不安
- 引用文献のデータ化には、一次資料や史料の扱い、多言語の扱い、
そもそも文献情報に誤りがある場合もある。作成と公開に当たっては、編集委員会との協力体制が望ましい
- 引用データの作成と公開の観点から、引用文献のスタイルに関する提案があると嬉しい

機関リポジトリへの期待④

紀要の規模や方向性などにより抱える問題はさまざま、それゆえ期待もさまざま

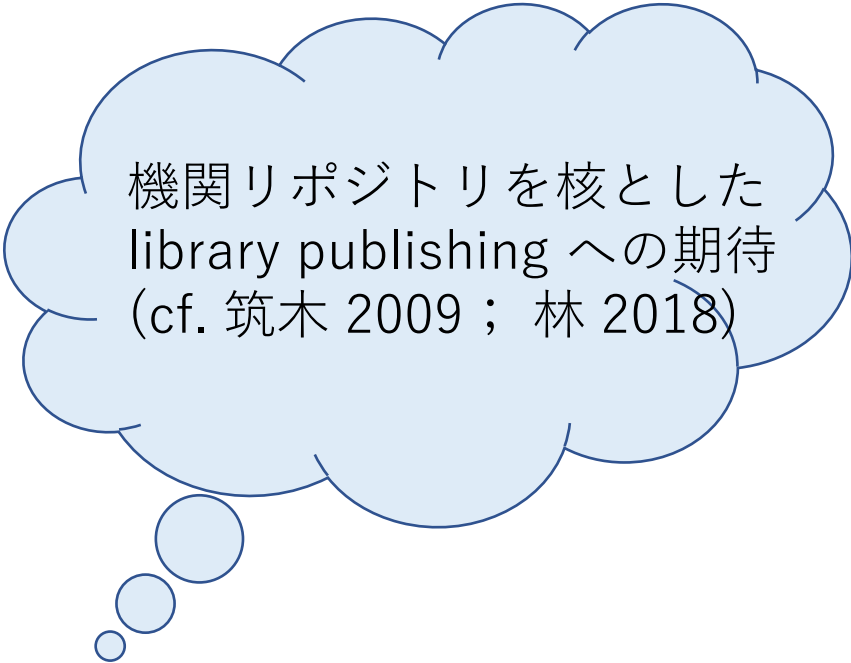
- 査読者探しが難しい

査読者登録サービスのような仕組みづくり？

- 論文に関するデータも掲載したい

- 発信力、知名度を高めたい

- ✓ 海外のデータベースやアグリゲータへの接続
- ✓ 閲覧数、ダウンロード数の分析
- ✓ オーバーレイジャーナルのような新しい見せ方（鈴木 2018）
- ✓ 翻訳機能



機関リポジトリを核とした
library publishing への期待
(cf. 筑木 2009； 林 2018)

Edinburgh Diamondの事例

図書館によるサポート

- OJSプラットフォームでジャーナルをホスティングし、長期保存を保証
- 必要に応じた技術サポートの提供
- 新しいジャーナルサイトのカスタマイズの提供
- 編集者がジャーナルを立ち上げ、ジャーナルポリシーを作成するためのアドバイスとサポートの提供
- OJSを使用するためのマニュアルと初期トレーニングの提供。必要に応じて追加トレーニングも提供
- 学術出版に関するアドバイスとベストプラクティスのガイドラインの提供
- HTMLフルテキスト、マルチメディアファイル、補足資料の出版に関するガイダンスの提供。
- 著作権に関する図書館内の専門家との相談、アドバイスの提供
- ISSNの申請
- Crossref DOIの管理と支払い
- 利用統計の提供（Google Analyticsのアカウントの設定）
- DOAJへの登録申請、DOAJ認証シールを取得するための要件を満たすためのアドバイス
- ジャーナルの可視性と発見性を高めるために、適切な抄録作成サービスや書誌データベースへの申請・・・

編集者の責任

- ウェブサイトの更新
- 編集・制作ワークフロー（投稿、査読、校閲、校正、ページレイアウト、タイプセット、イラストやマルチメディアファイルの取り扱い）の管理
- コンテンツのオンライン公開、書誌情報の確認
- ソーシャルメディアアカウントを含むジャーナルプロモーションの管理
- 図書館のポリシーに従うこと
- 出版されたコンテンツが第三者の著作権を侵害しないことを保証
- 出版スケジュールに従った出版
- 図書館からの連絡にタイムリーに対応すること・・・

About the Journal Hosting Service



Edinburgh Diamond

Library-supported
Open Access Journals

Edinburgh Diamond, a service provided by Edinburgh University Library, uses Open Journal Systems (OJS) to support the publication of academic and student-led Open Access journals. Find out more about what we offer, our policies and the key benefits of using our OJS platform and service.

Submit a Journal Proposal



Interested in hosting your journal with the Library? We would be happy to discuss how we could help you set up a new journal or migrate an existing title.

<https://www.ed.ac.uk/information-services/research-support/edinburgh-diamond/journal-hosting-service>.

参考文献

- アンダーソン, リック. 宮入暢子(訳). 2022. 『学術コミュニケーション入門—知っているようで知らない128の疑問』 アドスリー.
光斎重治編著. 2000. 『逐次刊行物』. 改訂第2版. 東京: 日本図書館協会.
- 後藤 真. 2018. 「研究の量的評価は人文学に対して可能なのか」 『学術の動向』 23 (10). DOI: [10.5363/tits.23.10_42](https://doi.org/10.5363/tits.23.10_42).
- JPCOARコンテンツ流通促進作業部会. 2022. 「DOI・ライセンスに関するヒアリング調査について」 DOI: [10.34477/0002000208](https://doi.org/10.34477/0002000208).
- 設楽成実. 2018. 「紀要の投稿規定の公開状況に関する調査」 『第66回日本図書館情報学会研究大会発表論文集』
- 下條陽介. 2022. 「ダイヤモンドOA」 第9回学術コミュニケーションセミナー (月刊JPCOAR) 発表資料. DOI: [10.34477/0002000167](https://doi.org/10.34477/0002000167).
- 鈴木哲也. 2018. 「“Journal-driven Research”を越えて—活き活きとした, 国際的で「社会的」な学術コミュニケーションに必要なこととは何か?— メディア特性から考えてみる」 第2回紀要編集者ネットワークセミナー「学術情報の国際発信力強化—学術刊行物・紀要を中心に—」 https://kiyo.cseas.kyoto-u.ac.jp/wp-content/uploads/2018/06/2_1suzuki_presentation.pdf
- 筑木一郎. 2009. 「図書館は出版社になる—電子ジャーナル出版支援および大学広報としての京都大学学術情報リポジトリ事業」 『大学図書館研究』 85.
- 西岡千文. 2022. 趣旨説明. 図書館総合展フォーラム「多様化するOAの実現手段とその評価」 2022年11月14日発表資料.
- 林 豊. 2018. 「『次世代リポジトリ』のヴィジョン」 『情報の科学と技術』 68(5). DOI: [10.18919/jkg.68.5_258](https://doi.org/10.18919/jkg.68.5_258).
- 芳鐘冬樹. 2004. 「科学研究出版の費用分析とビジネスモデル」 カレントアウェアネス (282). <http://current.ndl.go.jp/ca1543>.
- Becerril, Arianna et al. 2021. The OA Diamond Journals Study. Part 2: Recommendations. DOI: [10.5281/zenodo.4562790](https://doi.org/10.5281/zenodo.4562790).
- Bosman, Jeroen et al. 2021. OA Diamond Journals Study. Part 1: Findings. DOI: [10.5281/zenodo.4558704](https://doi.org/10.5281/zenodo.4558704).
- Proudman, Vanessa. 2021. Understanding How Diamond Journals Are Funded And How Sustainable They Are. In *OA Diamond Journals Study. Part 1: Findings* authored by Jeroen Bosman et al. DOI: [10.5281/zenodo.4558704](https://doi.org/10.5281/zenodo.4558704).
- The University of Edinburgh. Edinburgh Diamond: Journal Hosting Service. <https://www.ed.ac.uk/information-services/research-support/edinburgh-diamond/journal-hosting-service>.